

エコアクション 21

環境経営レポート



2022 年度版（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

三兼商事株式会社

作成 2023 年 6 月 30 日

会社概要

(1)社名 : 三兼商事株式会社

(2)代表者 : 代表取締役社長 小田 晴道

(3)所在地 : 〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通 3-21 三兼ビル

(4)設立 : 1957 年 5 月 2 日

(5)環境管理責任者 : 取締役営業統括部長
担当連絡先 : 総務部 課長

(6)事業の規模

事業内容 : 船用機器・建設機械用機器・発電所向け機器・水処理施設用
機器・一般産業機械用機器の販売

資本金 : 24,000 千円

従業員数 : 20 名

床面積 : 839.17 m²

売上高 : 29 億円 (2022 年度実績)

(7)認証・登録の対象範囲

登録組織名 : 三兼商事株式会社

対象事業所 : 本社・全組織

対象活動 : 全活動

(8)レポートの対象期間 : 2022 年 4 月～2023 年 3 月

発行日 : 2023 年 6 月 30 日

環境経営方針

[ご挨拶]

三兼商事株式会社は1957年創業以来、主要取引先である三菱重工業株式会社様から絶大なる信頼とご支援を賜りながら堅実な経営を営んで参りました。

昨今では、環境負荷低減を目的とした機械装置の販売にも従事しており、環境問題と向き合う企業理念が今後の重要な課題であると考えます。

そこで満50年を迎え、更なるグローバル化の一環として環境に配慮した経営を目指し、環境マネジメント認証を取得しました。

地球環境に優しい商社として新たな一步を踏み出し、以下の通り環境マネジメントに取り組み、環境経営の継続的改善を実施致します。

[基本理念]

当社は環境保全を経営の重要課題のひとつと考え、事業活動を通じて従業員一丸となって環境保全に取り組み、豊かな社会の実現に貢献します。

[行動指針]

- 1.環境負荷軽減の為にCO2排出量の抑制・廃棄物の削減及び有効利用・水使用量の削減を重点的に推進します。
- 2.教育・訓練等の実施により従業員に環境方針並びに環境保全の重要性を周知徹底します。
- 3.環境関連法規及び当社が同意した各種協定を遵守します。
- 4.環境負荷を軽減させる資材の利用、製品の販売を促進します。
- 5.グリーン購入に積極的に取り組みます。

2009年4月1日 策定

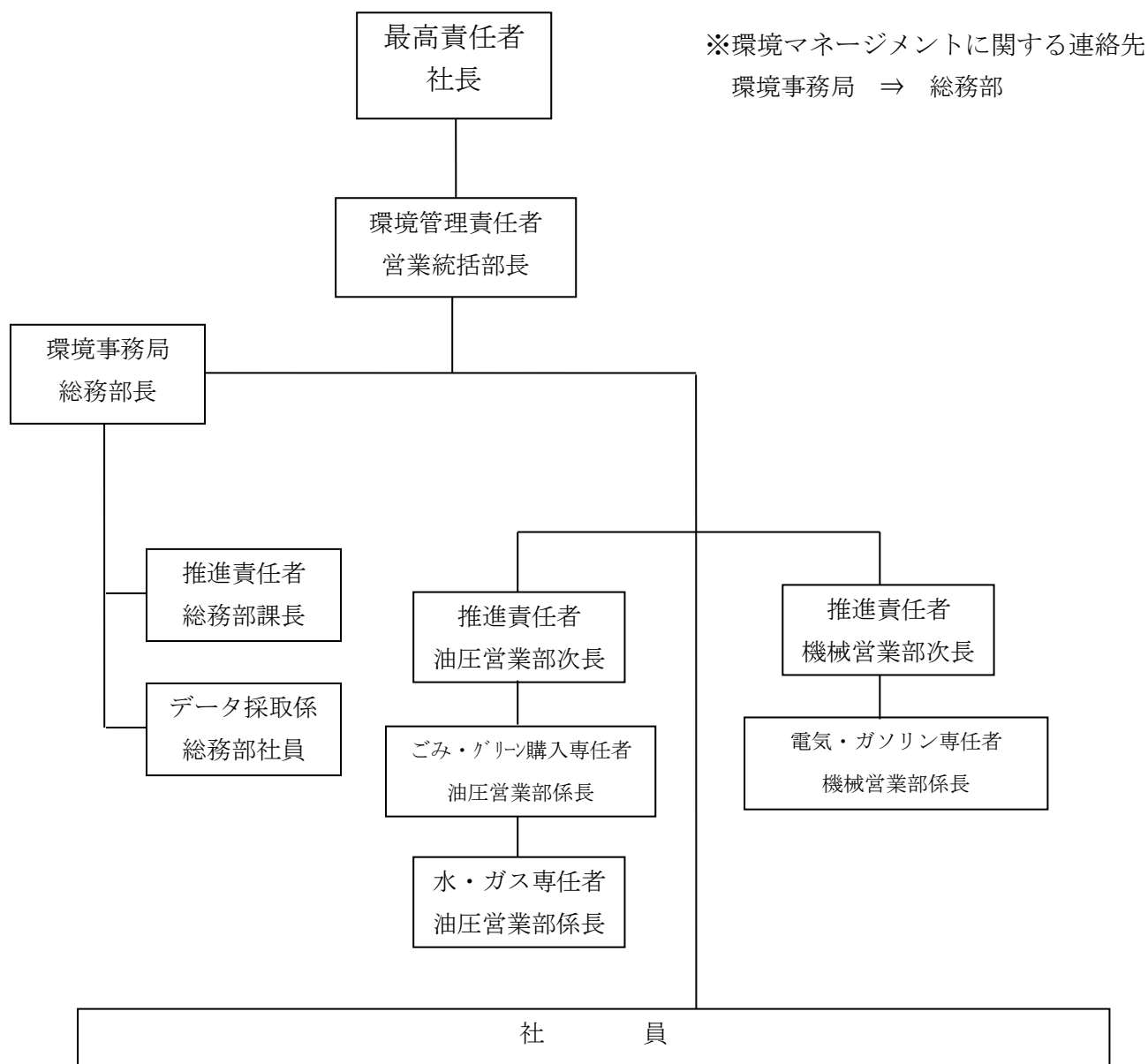
2018年4月6日 改定

三兼商事株式会社

代表取締役社長 小田 晴道

環境マネジメント組織と役割

<会社組織と環境マネジメント組織>



<環境マネジメント役割分担>

最高責任者	環境方針の策定、全体の評価と見直し、環境目標及び活動方針の承認
環境管理責任者	実績の評価と見直し、環境目標の設定、活動計画の策定
環境事務局	環境マネジメントにおける外部窓口
推進責任者	システムの確立、実施、環境目標の推進と実績の把握と報告・改善案に基づいた活動内容の立案
専任者	担当項目の問題点集約と改善案立案・担当項目の推進
データ採取係	各項目のデータ採取

環境経営目標

①中期計画(2021 年度～2023 年度)

前中期計画(2018～2020 年度)の結果より、当中期計画(2021～2023 年度)を以下のように定めた。

なお、2020 年度実績に関しては、短時間勤務(コロナ対策)での実績なので除外し、2018・2019 年度のデータを元に中期計画を決定する。

- ・電力 ⇒ 未達成のため、前中期計画の基準値を継続する。
- ・ガス・燃料・燃費・水・ゴミ ⇒ 2018 年・2019 年実績の最小値を基準値として挙げる。

また、2018 年度より環境経営目標に『環境性能に優れた機器類の取扱品目の拡大』を挙げていたが、当中期計画から『環境負荷低減製品の提案・販売』へ変更する。以前は取扱品目を毎年 1 件追加することを目標としていたが、当中期計画からは『1 件以上の販売実績』を目標とする。

項目	単位	基準値	2021 年度	2022 年度	2023 年度
			目標	目標	目標
CO2 排出量	kg - CO2	29,778	29,778	29,778	29,778
電力	kWh	55,353	55,353	55,353	55,353
ガス	m ³	76	76	76	76
燃料	L	5,169	5,169	5,169	5,169
燃費	km/L	18.4	18.4	18.4	18.4
水	m ³	218	218	218	218
ゴミ	可燃	kg	595	595	595
	資源	kg	185	185	185
グリーン購入	件	15	15	15	15
環境負荷低減製品	件	1 件以上	1 件以上	1 件以上	1 件以上

・電力の二酸化炭素排出係数は、2021 年度より関西電力の 2019 年度係数『0.318kg-CO2/kWh(調整後)』(2021 年 1 月 2 日公表)を採用している。

※ 燃料は『ガソリン』と『軽油』の合計量を記載している。

(ガソリンは社用車、軽油はレンタカーのみで使用)

※ 燃費は社用車の走行距離を『ガソリン』のリッター量で割って算出している。

②2022 年度活動内容と結果

＜2022 年度実績＞

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

項目		目標	実績	目標との比較	達成度
電力使用量 (CO2 換算値)		55, 353kWh	51, 781kWh (16, 104kg-CO2) ※1	-3, 572kwh	A
ガス使用量 (CO2 換算値)		76 m³	45 m³ (100kg-CO2)	-31 m³	A
車両燃料使用量 (CO2 換算値)		5, 169L	3, 869L (8, 988kg-CO2)	-1, 300L	A
二酸化炭素量 (上記 3 件合計)		29, 778kg-CO2	25, 192kg-CO2	-4, 586kg-CO2	A
燃費		18. 4km/L	18. 4km/L	±0km/L	A
水使用量		218 m³	155 m³	-63 m³	A
ゴミ類	可燃ゴミ	595kg	518kg	-77kg	A
	資源ゴミ	185kg	195kg	+10kg	B
グリーン購入		15 件	15 件	—	A
環境機器取扱品目数		1 件以上	2 件	—	A

(達成度) A:よくできた B:まずまずできた C:あまりできなかった D:全くできなかった

※1 電力の二酸化炭素排出係数は『0.311kg-CO2/kWh(調整後)』(関西電力 2023 年 1 月 24 日公表)を採用。

＜2022 年度活動内容と評価＞

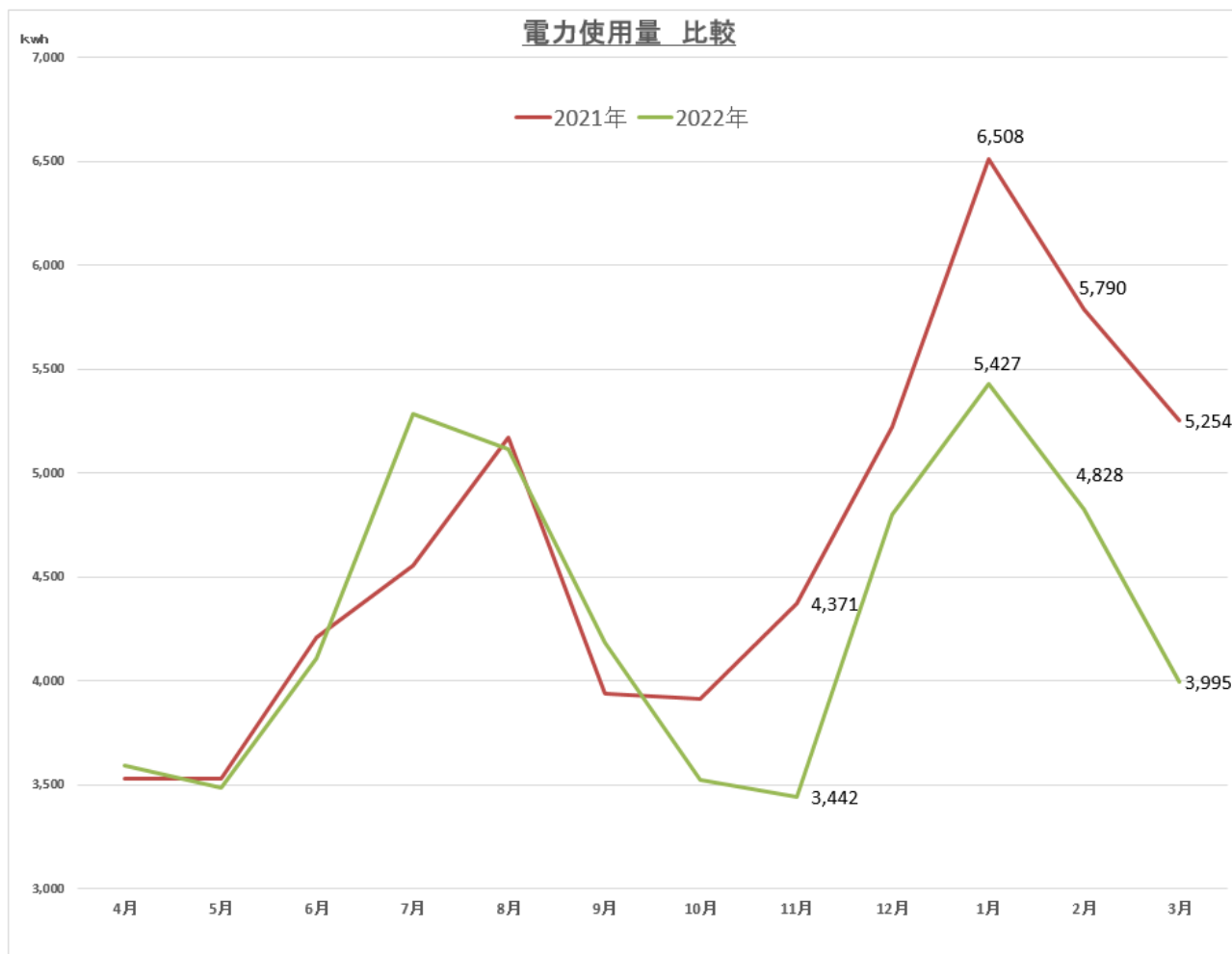
項目	活動内容	評価
電力使用量の削減	エアコンの温度管理 夏季 26℃／冬季 23℃ 不要箇所の消灯 外出時、パソコンを切る	2022 年 11 月にて分散業務を終了し、2F 事務フロアでの業務へ戻った。 分散業務で使用していた各階の部屋の電灯・エアコンの稼働率の減少に伴い、全体的な電力使用量が削減された。
ガス使用量の削減	ガス給湯器の使用頻度削減	今年度もガス給湯器の使用を最小限に抑えられた。
車両燃料の適正使用	エコドライブの奨励 計画走行の充実	コロナ禍の影響で出張回数が減少している。 今後、出張が従来に戻った際も目標達成できるよう、急発進・急加速の禁止、アイドリング減少、タイヤ圧管理、計画走行を徹底する。
水使用量の削減	節水奨励	今年度も使用を最小限に抑えられた。
ゴミの削減	裏紙使用の徹底 ゴミ排出量低減活動	可燃ゴミは目標達成。 資源ゴミは、2022 年 10 月に行った在庫整理により、不要な本・カタログ類・段ボールを大量廃棄したことで目標値をオーバーした。
グリーン購入	グリーンマーク商品・リサイクル商品の積極的購入	予算内で可能な対象を選び、目標を達成できた。 今後も用紙・プリントインキ等対象を広げ検討する。
環境機器取扱品目数	環境負荷低減商材への積極的な営業参画	火力発電所用部品・船舶エンジン用部品の販売実績あり。

③2023 年度 目標と活動計画

<2023 年度活動計画>

項目	目標値	活動計画	担当者
電気使用量の削減	55,353kWh	①エアコンの温度設定管理 冷房 26℃/暖房 23℃ 室内温度：夏季 28℃以上/冬季 20℃以下のみ使用 ②不要箇所の消灯、ブラインドを開ける ③外出時にパソコンを切る ④古い設備機器(エアコン・LED)の順次入替え	大村
ガス使用量の削減	76 m ³	ガス給湯器の使用を抑える	松本拓
車両燃料の適正使用	使用量 5,169L 燃費:18.4Km/L	①エコドライブの奨励 法定速度遵守/急発進・急加速の禁止 ②計画運行の奨励 ③アイドリングストップの奨励	大村
CO2 排出量(上記 3 件換算)	29,778kg-CO2	—	—
水道使用量の削減	218 m ³	節水奨励	松本拓
ゴミの削減	可燃：595kg 資源：185kg	①裏紙使用の徹底 裏紙専用プリンターの設置 ②ゴミ排出量低減活動（ビニール袋をもらわない等）	高野
グリーン購入	15 件	①対象の見直し (従来はグリーンマーク商品のみを対象としていたが、 リサイクル商品も対象に含める) 全体として 15 件対象を選定	高野
環境負荷低減製品の提案 ・販売	販売実績 1 件以上	環境負荷低減効果のある製品の販売を推進する。 各メーカーが開発した省エネ製品・環境負荷低減製 品の新製品の拡販を重点的に計画する。	南

(参考資料 ①) ※電力使用量の推移 (2021 年・2022 年)



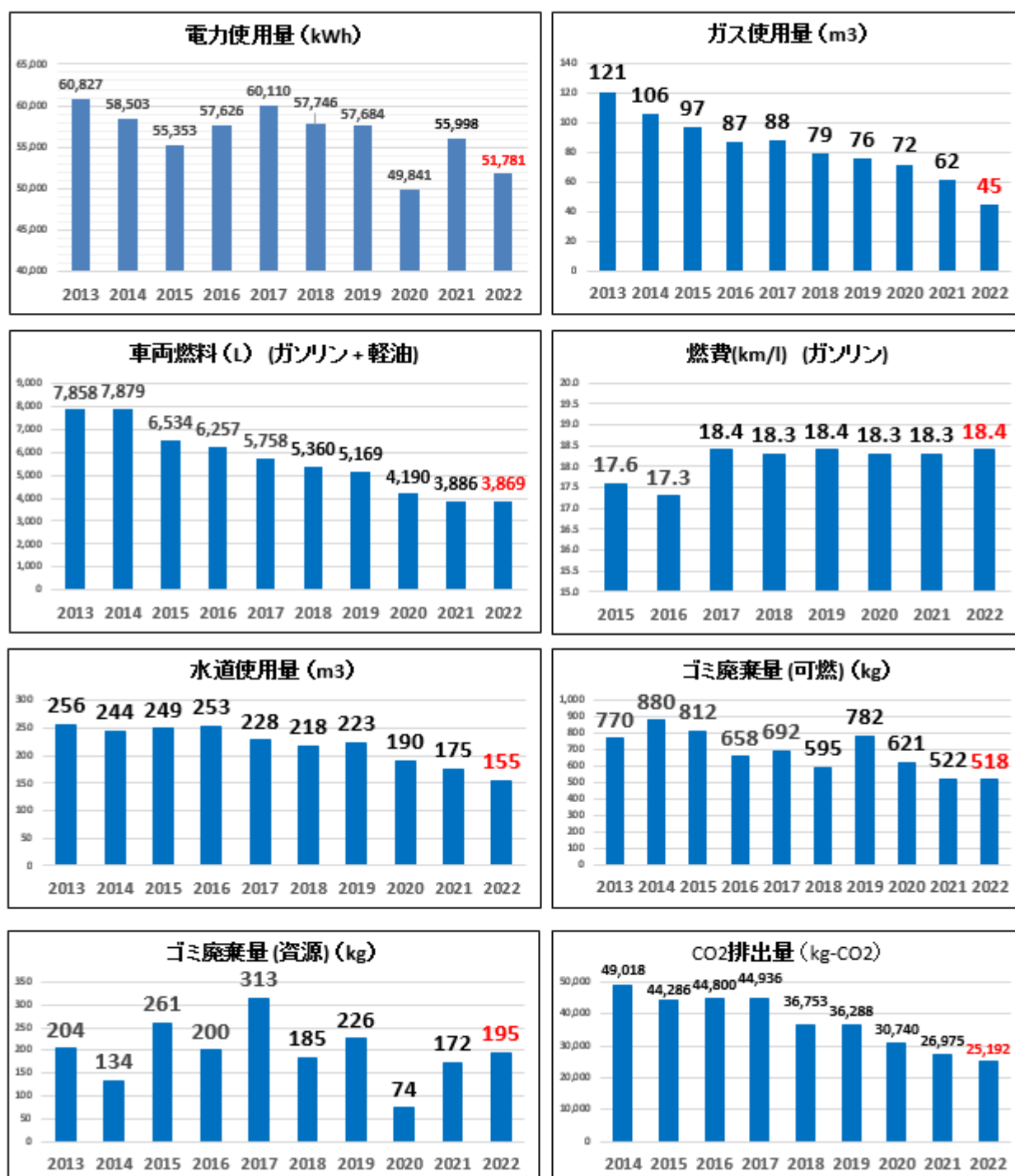
(グラフからの考察)

2021 年と 2022 年のグラフを比較すると、11 月～3 月に電力使用量の大きな低下が見られる。2021 年は年間を通して、密を避けるために事務フロアに固まらず、出来るだけ部屋を分散してして業務を行った。その結果、会議室・客室を使用する頻度が増えた。

その後、コロナの収束に伴い、2022 年 11 月で分散業務を終了し、事務フロアでの業務へ戻した。その結果、2022 年 11 月以降、分散業務で使用していた部屋の照明やエアコンの使用頻度が大幅に減り、全体的な電力使用量が減少したと考えられる。

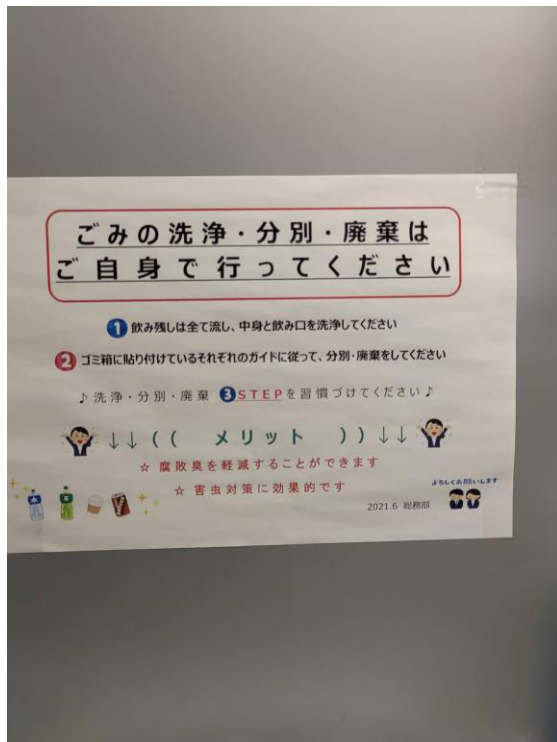
(参考資料 ②) ※各実績値の推移

環境目標 実績値推移 (2013～2022年度)



(参考資料 ③) ※社内掲示物について

(資源ゴミ分別方法の掲示) ※ビン・缶・ペットボトル廃棄方法について



(2F 事務所内に掲示) ※ゴミの分別方法・減量、社内衛生の意識向上

ごみの腐敗臭を軽減するために
ご協力をよろしくお願い致します!!



お弁当・カップ麺等の容器

♪食べ終わったあとは、綺麗に洗い流し水分をよく切ってください

食べ残した食材は三角コーナーへ

※フードロス防止のために、できるだけ食べ残しは御遠慮ください

コンビニコーヒーのカップ



♪カップの中、飲み口を綺麗に洗い流し、水分をしっかりと切ってください

割り箸・爪楊枝

♪ゴミ箱にそのまま捨てると袋に穴が開きます
水分が流れ出てゴミの保管場所の衛生環境が悪くなりますので
弁当容器の中に入れ蓋をするか、いらない紙に包んでください

できるだけ、マイ箸のご持参をお願い致します



～メリット～

- ①綺麗に洗い流すことにより腐敗臭を軽減できます
- ②水分をしっかりときるにより、ゴミの減量に繋がります
- ③害虫対策に効果的です



【ライター】

ガス無し→燃えるゴミ
ガス残あり→総務部へ

【割り箸・爪楊枝】

箸袋に戻して捨てるか
紙に包んでから捨ててください



一辺が50 cm以下のもの

ゴミの分別に御協力をお願いします



大型ごみ
(指定袋に入らない)
机・イス
大型プラスチック
業者へ収集委託しますので
総務部へ御連絡下さい



飲料や食品が入っていたもの



・不燃物と可燃物からできている物
・1辺が50cmを超える可燃物



その他が

【捨てるまえに】
・食べ物の容器は洗って、水けをよく切ってください
・ごみは小さくまとめてください



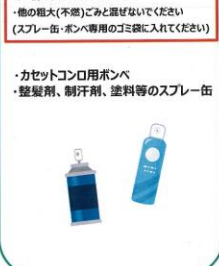
【捨てるまえに】
1. 中身を捨てて綺麗に水洗い
2. ラベルをはがして可燃ごみへ
3. キップも可燃ごみへ



【注意事項】
尖ったもの、割れているものは紙に包んで
から可燃ごみに捨ててください
(紙に「キケン」と書いてください)



【注意事項】
・中身を全部使い切ってください
・穴を開けずに出してください
・他の粗大(不燃)ごみと混ぜないでください
(スプレー缶・ボンベ専用のゴミ袋に入れてください)



環境関連法規制等の取りまとめ

(兼遵守状況の確認)

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。
過去3年間に法令違反及び公的機関からの指導はありません。

また同じく近隣等からの要求、訴訟はありませんでした。

法 規 名	公 布	改 正	適用条項	要求事項または内容	遵 守 状 況	確認日
神戸市民の環境をまもる 条例	H6.3.31	H9.3.31	5条-1・2・3・6 30条 46条	環境負荷低減の積極的な取組 学習の実施 地球環境保全への取組	○	6月2日
神戸市廃棄物の適正処理、 再利用及び環境美化に 関する条例	H5.3.31	H28.10.1	5条	廃棄物の適正処理	○	6月2日
フロン排出抑制法	H27.4.1	R4.6.17	16条～26条	業務用エアコンの簡易点検	○	6月2日
消防法	S23.7.24	R4.6.17	17条の3の3	消防設備等の定期点検	○	6月2日
自動車 NOx・PM 法	H.4.6.3	R2.4.1	1条 4条	自動車排出窒素酸化物等 の排出の抑制	○	6月2日
自動車リサイクル法	H.14.7.12	R4.6.17	1条 5条 8条	長期使用の推進と 適正廃却の義務	○	6月2日
家電リサイクル法	H.10.6.5	R2.4.1	6条	長期使用の推進と 適正廃却の義務	○	6月2日

※ 上記の法律に関しては、法令データ提供システム(総務省 HP)にて、最新の法改正について随時確認
を行っている。

法令データ提供システム ⇒ <https://elaws.e-gov.go.jp/>

代表者による全体の評価と見直し・指示

(評価)

(2022 年度各項目の目標との比較)

項目		目標	実績	目標との比較	達成度
電力使用量 (CO2 換算値)		55, 353kWh	51, 781kWh (16, 104kg-CO2)	-3, 572kwh	A
ガス使用量 (CO2 換算値)		76 m³	45 m³ (100kg-CO2)	-31 m³	A
車両燃料使用量 (CO2 換算値)		5, 169L	3, 869L (8, 988kg-CO2)	-1, 300L	A
二酸化炭素量 (上記 3 件合計)		29, 778kg-CO2	25, 192kg-CO2	-4, 586kg-CO2	A
燃費		18. 4km/L	18. 4km/L	±0km/L	A
水使用量		218 m³	155 m³	-63 m³	A
ゴミ類	可燃ゴミ	595kg	518kg	-77kg	A
	資源ゴミ	185kg	195kg	+10kg	B
グリーン購入		15 件	15 件	—	A
環境機器取扱品目数		1 件以上	2 件	—	A

(見直し・指示)

2022 年度は概ねすべての環境経営目標を達成することができた。電力に関してだが、昨年は目標未達だったが、本年度は目標値をクリアする事が出来た。要因としては、昨年度より続けていた分散業務を 2022 年 11 月から通常の事務フロアでの作業へ戻した事だと考えられる。このことにより、分散業務で使用していた部屋の稼働率が減り、全体的な電力使用量が減少したと考えられる。今後も節電を続け、目標達成できるよう努める。

唯一目標値をオーバーした資源ごみだが、定期的に行っている在庫整理の際に出た不要な書類・カタログ・再利用できない段ボール等を廃棄したことが原因である。今後は、書類やカタログは電子化することで量を減らし、段ボールについても過度な梱包を避けて使用量を減らすよう努める。

なお、環境機器の取扱件数に関しては、火力発電所用部品・船舶エンジン用部品の計 2 件の実績があった。(以下に詳細を記載)

なお、環境経営方針・実施体制については、引き続き現状のまま継続する。

(環境機器の概要)

1.発電所向バルブ及び配管用特殊リング

取引先ユーザー製作の発電プラントは、スチームタービンは 100 年、ガスタービンは 60 年の歴史がある。プラント製作当初より発電効率アップの検討を継続しており、現在ではスチームタービンとガスタービンを組み合わせたコンバインドサイクル発電 (GTCC) が多く採用されている。GTCC は従来型の石炭焚き火力発電より発電効率が 20% 向上し、CO₂ 排出量も約 50% の削減が可能となっている。

当社も約 50 年間に亘り、スチームタービン・ガスタービンの関係機器を納入してきた。スチームタービンは 50 年前、ガスタービンは 10 年前よりプラント内のバルブ及び配管用の特殊リング製品を供給している。

上記の事から間接的ではあるが、発電プラントの発電効率アップ、CO₂ 削減に寄与している。今後も継続して納入する予定である。

※ 2022 年度実績 4.8 億円 2023 年度見込 2.5 億円

2.船舶エンジン用ピストンリング

2010 年以降に電子制御により必要最低限の燃料でエンジンを運転出来る高効率エンジンが開発された。燃焼効率が上がった為、排ガスの低減効果が認められる。

当社は上記 Eco エンジン (Electronically controlled Engine) の内蔵部品であるピストンシリンダー用ピストンリングを供給しており、間接的に環境対策に寄与している。今後も継続して納入する予定である。

※ 2022 年度実績 1.3 億円 2023 年度見込 1.6 億円

以上の 2 件である。

いずれも環境負荷の低減に効果のあるものであり、また取引額の面からも当社の経営に大きな影響を与えていると考えられる。今後も環境経営を継続し、環境負荷の少ない新製品の拡販や環境関連の案件への積極的な営業活動を行って、活動範囲を拡大する。

以 上

2023 年 6 月 30 日

代表取締役社長 小田 晴道